

【織田信雄が築き、蒲生氏郷も入った「松ヶ島城」(城下町編)】

先月号では、松ヶ島城について紹介しました。松ヶ島に松ヶ島城があったことはよく知られているのですが、実は当時の松ヶ島には城だけでなく、城下町も形成されていたと考えられています。しかし、残念ながら、現在の松ヶ島には、松ヶ島城と同様に、その城下町の面影を残すものはほとんど見あたりません。では、松ヶ島城の城下町とは、どのようなものだったのでしょうか？ その様子を、明治時代初期の「伊勢松ヶ嶋村図」⁽¹⁾(以下、村図。裏面 図2)から探っていきましょう。

○「伊勢松ヶ嶋村図」からうかがえる松ヶ島城の城下町の様子



図1 松ヶ島城跡へ直線的にのびる道

まず、村図に載っている町の名称を見ていくと、松ヶ島城の三ノ丸と考えられている場所に「殿町」と記されています。そして、城の西に「本町」、「西町」、「新町」、「樋ノ町」、「カミヤ町」、南に「鍛冶(冶)町」、「長町」、北に「小蔵町」、「新出町」とそれぞれ記されています。殿町には武士が、鍛冶町には鍛冶職人が、そのほかの町には商人や様々な職人が住んでいたのかもしれない。

次に、道について見ていくと、西から東へまっすぐ「塚本久米道」⁽²⁾がのびています。また、当時の参宮街道(参宮古道)⁽³⁾は、三渡川を渡ったあと、松ヶ島を経由していたとされており、村図では、「此辺 旧参宮街道カ」と推定する形で記されています。この道を南下すると塚本久米道に合流し、城へ向かうことになります。この城へ向かって直線的にのびる道(図1)は、当時のメインストリートであった可能性があり、この道に沿って多くの町屋が軒を連ねていたのかもしれない。

さらに、松ヶ島城の一面には「蒲生屋敷趾カ」と記されており、ここに蒲生氏郷の屋敷があったのではないかと考えられていたことがわかります。また、「八雲神社跡」や「来迎寺地藏堂跡」と記されていることから、神社や寺の存在もうかがえます。そして、本町の北の「北市場」と記されている場所には、市が立っていたことも想像できます。さらに、本町の東端に「テレン」と記されている場所があります。テレンが何を表すのかよくわかっていませんが、氏郷がキリシタンであったことから、「バテレン(伴天連)」⁽⁴⁾と関連するのではないかと考える人もいます。

このように、村図からは、松ヶ島城を中心に形成された城下町の様子をうかがい知ることができました。では、なぜこの城下町は松ヶ島から姿を消したのでしょうか？ それには、蒲生氏郷が大きくかかわっているのです。

○松ヶ島城下の町を移転させた蒲生氏郷

「一、於松ヶ嶋百姓之外、町人相残り居住之儀一切令停止事」。これは、『松坂権輿雑集』⁽⁵⁾(以下、権輿雑集)収録の「蒲生氏郷町中掟之事」の第10条です。町中掟は、12の条文からなり、氏郷が、松坂城に入城した年(天正16年)の11月に公布したものです。上の第10条の内容は、松ヶ島に百姓以外の町人が残って居住することの停止を命じるもので、言い換えれば、松ヶ島城下の町人を新たにつくった松坂城の城下に強制的に移住させるものと言えます。

そして、権輿雑集に記されている当時の松坂の町の来歴を見ると、本町・大手町・工屋町・紺屋町・博労町・中町・鍛冶町・下職人町・白粉町・櫛屋町・新町・桜屋町・大工町・魚町の14町⁽⁶⁾に「天正十六戊子年松ヶ嶋より移」などと言う記述があり、

これらの町が天正16年に松ヶ島から松坂城下へ移ったことがわかります。また、権輿雑集の神社や寺の来歴も見てみると、弥勒院并牛頭天王・正円寺・常念寺・清光寺・来迎寺などに松ヶ島から移ったという記述があります⁽⁷⁾。これらのことから、松ヶ島城下の町や神社・寺は、氏郷の松坂城入城や町中掟の公布をきっかけに松ヶ島を離れ、松坂城下に移転していったと考えられるのです。

○おわりに

松ヶ島には、松ヶ島城が築かれ、そのまわりには城下町が形成されていました。城下町には街道が通り、商人や様々な職人が住んだ家が軒を連ね、神社や寺も立ち並び、賑いを見せていたことが想像できます。そして、その賑いは、氏郷が松坂城下に町を移したことで、そちらに引き継がれることになりました。松坂城下町は、江戸時代、多くの商人などが出て大いに繁栄しますが、その重要なルーツのひとつは松ヶ島城の城下町であると言えるのではないのでしょうか。(担当)

(7) 村図には、常念寺田や清光寺浦の名称が記されており、常念寺や清光寺との関連が想像される。
※今回ははにわ通信を書く際、当センター特別展図録『氏郷の遺したもの』(2011年)・『氏郷の時代-城づくり 町づくり-』(1998年)、『松阪市史 第9巻 史料篇 地誌(2)』(松阪市、1981年)収録の「松坂権輿雑集」、『松阪市史 別巻1 松阪地図集成』(松阪市、1983年)、『三重県史 通史編 近世1』(三重県、2017年)などを参考にしました。

【瑞氣集門】

新しい年を迎えました。初日の出、初詣、初夢、書初め…『初』の気持ちで平成31年のスタートをきります。

お正月には、今でも日本の伝統行事が多く残っています。門松やしめ縄を飾り、家々に神様を迎え入れ、家内安全や豊作を願います。家族で縁起のものや、いわれや意味を持つ「おせち料理」などをいただきます。

伊勢神宮に近い松坂には、神事に関わる無形民俗文化財も多くみられます。私が毎年、初詣に行く天白神社では、元旦に獅子舞が行われます。この獅子舞は、江戸時代から続くもので、松阪市指定の無形民俗文化財になっています。また、松の内がすむと「左義長」や「どんど火」が行われ、門松で迎えた神様を炎とともに見送るといわれています。飯南地区の左義長や松阪神社をはじめ地域の神社でのどんど火に多くの人が集まります。伝統行事を楽しみながら、1月を過ごしてはいかがでしょうか。



曾原の獅子舞

文化財センターは今年、『はにわ館 15周年』を迎えます。文化財を大切に保存し、活用をすすめるとともに、新たな文化の創造に寄与できるように、様々な企画をしていきたいと思っております。

皆様のご利用・ご来館をお待ちしております。(所長)

※瑞氣集門…めでたいことが起こる兆しの気が、すでにあなたの玄関先にあつまっているという意味。年末にある書道家さんからセンターにいただいた言葉です。

文化財センター はにわ館 & ギャラリーの催し物予定

1月の休館日は、1/1～1/3、7日(月)、15日(火)、21日(月)、28日(月)、2月の休刊日は、4日(月)、12日(火)、18日(月)、25日(月)です。開館時間は9:00～17:00です。

【はにわ館】 入館料 100円 (18歳以下無料) *入館は16:30まで

第1展示室 ■常設展「宝塚古墳の謎」

【ギャラリー】 入場無料

第1・2・3G ■松阪市幼小中造形展 1/12(土)、1/13(日)、1/17(木) 9:00～16:00

第2G ■第11回 こどもハニワ展 1/19(土)～1/27(日) 10:00～16:00

第1G ■松阪美術協会 新春展 1/19(土)～1/27(日) 9:00～17:00 ※初日は13:00から、最終日は16:00まで

第1G ■小学生 詩と絵の公募展 天地の恵み会 1/30(水)～2/3(日) 10:00～16:00

【イベント】

文化財センター内 ★スタンプラリー 1/12(土)、13(日) 9:00～16:00 ※スタンプを集めるとシールがもらえます

【発行】松阪市文化財センター 【電話】0598-26-7330 【HP】https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/

(1) この村図は、松ヶ島城があった当時からおよそ280年後の明治時代初期のものである。しかし、松ヶ島城の頃も意識したものであるため、当時を推定する貴重な資料となっている。
(2) 村図は、この通信の作成に当たり必要な部分を抜粋しているため「塚本久米道」の記載はないが、本来の村図には記載されている。 (3) 伊勢神宮へ向かう道。当時の参宮街道は、現在の参宮街道よりも海岸線より通っていた。氏郷がこの道を松坂城下を通るように付け替え、現在に至っている。 (4) キリシタンの司祭・神父のこと。また、キリシタン指導者一般もさす場合があったらしい。 (5) 成立は1750年ごろ。松坂の歴史を知るうえで欠かせない史料。 (6) これらのうち、村図に記載されているのは、本町・鍛冶町・新町のみである。



バーコード読み取り
(文化財センター情報)

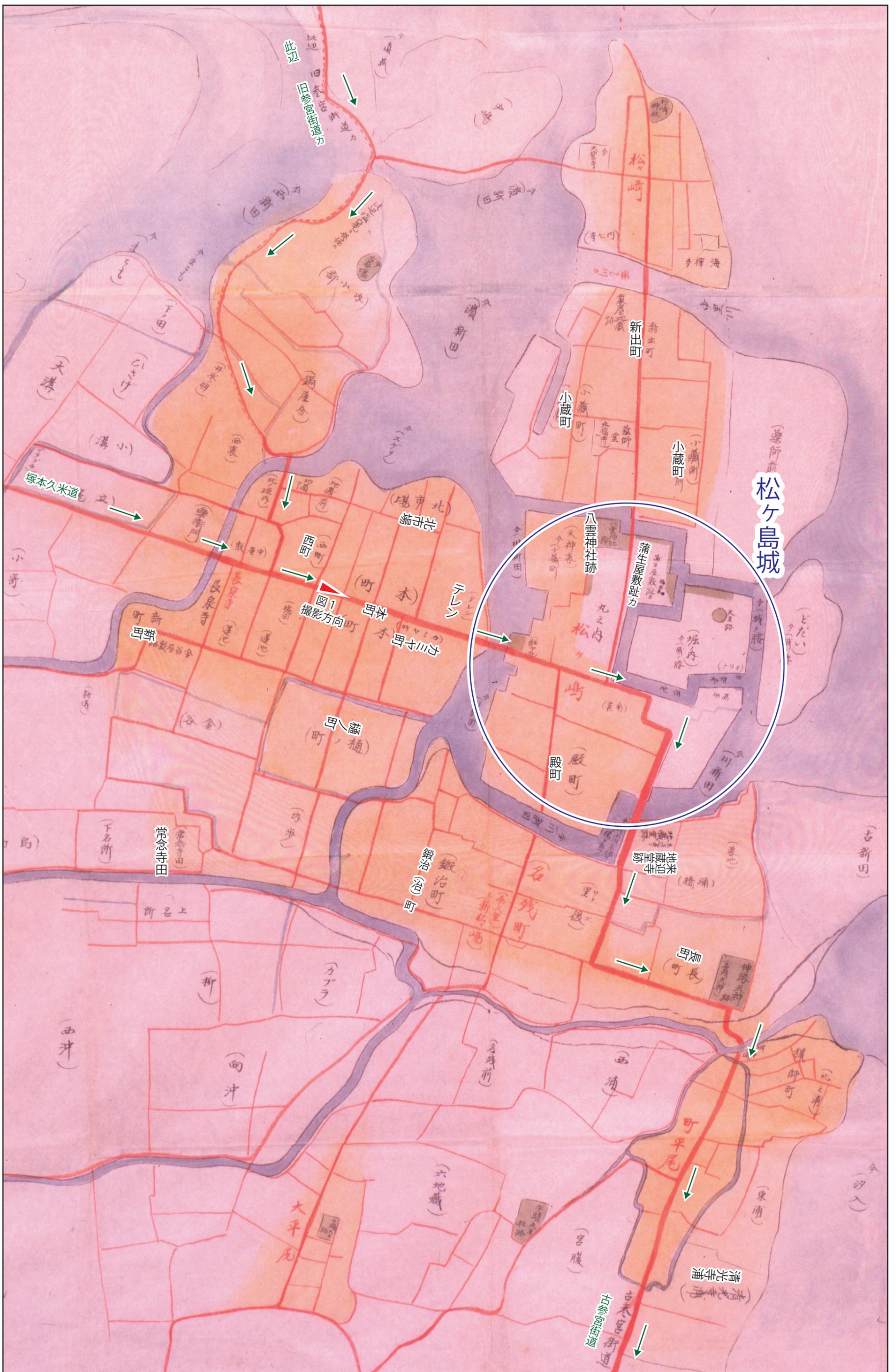


図2 伊勢松ヶ島村図(公益財団法人 三井文庫所蔵)より抜粋 ※先月号よりも広い範囲を抜粋しています。